

議 会

村民の皆様、新年あけましておめでとうございます。この1年が素晴らしい年となりますことを心からお祈り申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界的規模で猛威を奮い、国、道、村を上げて感染症対策や景気対策に取り組んだ1年でしたが、依然として厳しい状況が続いています。幸いにも、当村において感染者はおりませんが、4月から5月にかけての学校休業に始まり、各種イベントの中止、インバウンドの低迷等、この1年間、皆様の生活に多大な影響が出ました。

このような状況のもとではありますが、新占冠保育所が4月より運用され、元気に子供たちが育っていることは、村民にとって大きな活力になっていることと思います。

災害に関しましては、全国的に災害被害が増加するなか、我が占冠村においては平穏な1年であったと安堵しています。しかしながら、いつ来るか分からない災害に備え、万全の準備を整える必要があります。

また、昨年まで続いていました、村内中学生・後期生とのコミュニティ・スクール議会は、学校休業や、3密回避の影響から、議場での開催を取りやめ、書面での開催となりました。今広報折込で開催結果をお知らせすることになりますが、子供たちの貴重な意見も伺うことができ、次年度は是非、議場で再開できないか検討を進めようと思います。

今年、コロナで延期となっていた東京オリンピック、パラリンピックが開催される予定となっています。新型コロナウイルス感染症が終息し、国民・村民に活力を与える大会になることを願っています。

村政の取り組むべき課題としては、新最終処分場の着工、トマム保育所の改築を柱に、多岐に渡っています。村議会としましては、このような課題を見据え、村民の皆様がより一層快適に住み、働き、憩うことのできる村の実現を目指し、全力で取り組んでいきます。

地方分権という時代の潮流も踏まえ、活発な議論を通じて議会審議の一層の活性化に取り組み、議決機関として村議会の責務を着実に果たしてまいります。

年頭に当たり、今年が明るく希望が持てる年となりますとともに、村民の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。



占冠村議会議長
相川 繁治

行 政

村民の皆さん、明けましておめでとうございます。

大変落ち着かない世情の中にあっても、健やかに新年をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

昨年は、人々が初めて経験する新型コロナウイルス感染症と向き合い、住民生活、経済活動、地域コミュニティの維持、各種活動の制限など大変不自由な生活を強いられた年だったと思います。

私もこの1年間、村づくりのため政策の実行を進める一方で、新型コロナウイルス感染症対策に気を張る年になりました。

村民の皆さんのご期待に沿っているのかとの思いを感じながら、この未曾有の有事に対応してまいりましたが、今もって終息を見通せない状況を考えると、村民の皆さんにお約束をした目標に向かって挑み、安心して暮らせる村づくりを進めることに不安を感じるころですが、必ず元の生活が戻ってくるものと希望をもって、新たな年へ向かって「住み続けたいと思える村づくり」のため全力で取り組んでまいり決意であります。

今年の干支は「丑年」で、牛は昔から食料としてだけでなく、農作業や物を運ぶときの労働力として、人間の生活に欠かせない動物であり、勤勉によく働く姿が誠実さを象徴し、身近にいる縁起の良い動物として十二支に加えられたようです。

十二支の動物の中で最も動きが緩慢で歩みの遅い牛（丑）の年は、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年と言われています。十二支の2番目の干支であることから、子

年に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされ、まだ結果を求める時期ではなく、結果に繋がる道をコツコツと作っていく基礎を積み上げていく時期とされます。丑の年は、黙々と目の前の自分の仕事をこなすことが将来の成功につながると考えると良いようです。

占冠村においても、農林業をはじめ観光産業、飲食業など、すべての産業において、新型コロナウイルス感染症による影響を受け、大きなダメージを受けましたが、その窮地を関係者の努力と我慢により乗り越えようとしています。迎える新年は着実に物事を進め、将来の成功へと繋がればと願うところです。

住民生活を維持発展するためには、まだ多くの課題を抱えている現状を認識しておりますが、占冠村の持っている大きな資源を生かし限らない発展のため、村民の皆さんと共に全力で村づくりに取り組んでまいります。

村民各位におかれましては、新型コロナウイルス感染症を乗り越え、希望に満ちたすばらしい年でありますようお祈り申し上げ年頭のごあいさつといたします。



占冠村長
田中 正治